

わが町の健康

Vol.2

～脳卒中のまとめから～

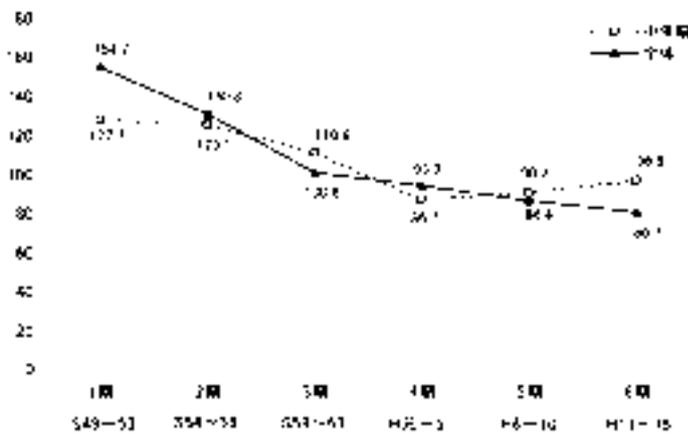
前号において、鬼北町における脳卒中による死亡者数は、長年のきめ細かな高血圧対策により、全国・県・管内で比較するとかなり少ないという報告をしました。

それでは、脳卒中を起こす人はどのくらいあるのでしょうか？

旧広見町では、毎年40～60人くらいの方が脳卒中を起こしています。30年間の発生の推移を1期（昭和49年～53年）、2期（昭和54年～58年）、3期（昭和59年～63年）、4期（平成元年～5年）、5期（平成6年から10年）、6期（平成11年～15年）に分けて標準化発生比（注）で見てください。

全体の発生は期毎に減少しています。6期では1期の約半分に減少しています。中年期（40～69歳）の発生も4期まで順調に減少していましたが、5期、6期と少しずつ増加しています。

標準化発生比 旧広見町

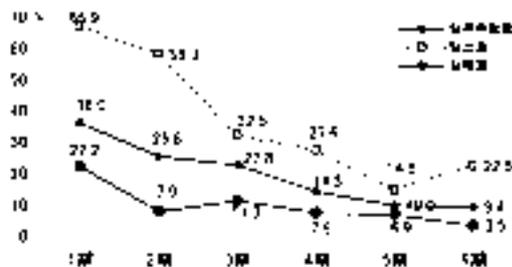


注 標準化発生比とは前号にでていた標準化死亡比ほどきちんとした統計処理ではないが、30年間の年齢構成の差を調整して平成2年の人口を基準として計算したものです。

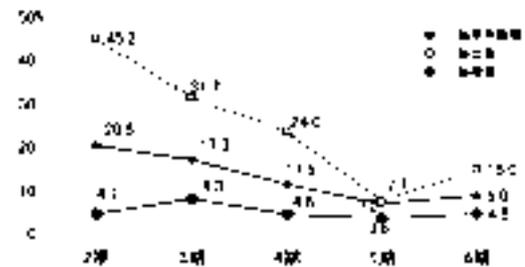
資料は出していませんが、年代別に見てみると、70代・80代の発生は順調に減少していますが、60代の発生が5期、6期で増えているため、中年期の発生を上昇させています。男女別では、全体でも常に男性の発生が多く、6期においては女性の1.2倍となっています。中年期においても男性の発生が多く、女性の1.8倍となっています。

脳卒中が原因で死亡する人は少ないですが、脳卒中を起こした人の4週間以内に死亡した人の割合を下記の表から見ると、全年齢の脳卒中総数は順調に減りつづけ、6期では1期の約4分の1に、脳梗塞においても約6分の1に減り、脳出血は約3分の1に減っています。しかし、全年齢、中年期ともに6期において脳出血の4週間以内の死亡は増えています。

脳卒中が原因で死亡する人の割合（全年齢）



脳卒中が原因で死亡する人の割合（中年期）



長年、中年期の脳卒中を減らそうという目標のもとに活動を展開してきました。5期までは脳卒中予防対策は成果をあげていましたが、6期になり中年期の発生や脳出血の4週間以内の死亡が増えてきました。

その背景には、長引く不況のもと、リストラなどで、中高年も厳しい状況に置かれていることなどもあるのではと推測しています。

そういう時だからこそ生活・食生活のあり方、仕事の仕方などについて、健康問題への支援をどう、具体的に進めていくのか、保健分野だけでなく、色々な分野で考えていかなければならない問題だと思えます。